

05.02.10 一新塾名古屋勉強会議事録

日時：2005年2月10日（木） 19:00-21:30

場所：名古屋ボランティア・NPOセンター（伏見）

参加者：木下、近藤、水野（9期）、山下、宮田／記

内容：

1. 納税者の権利プロジェクト（近藤）

1月の山下事務所での勉強会は参加者1名だった、次回2／18日もあり、その時のためのスライドも紹介した、そして、今後どう打ち出すのが良いか相談した。

アイデアとして出されたのは以下の通り。（抜粋）

- ・ 前回の資料では市民には難しすぎるのでは
- ・ 参加者が手で作業するのがいいのでは
- ・ クイズ形式を導入（藻谷氏形式）
- ・ 一方的な話の押しつけではなく、話を引き出す
- ・ サービスの比較（例えばピーチライナーとその他の事業）と選択をする
- ・ 勉強会を行う納得できる目的を市民に提示する

2. 公益法人改革

15期の水野氏は欠席のため参加者が談話をした。内容は以下の通り。（抜粋）

- ・ 政策の陪審員制度の現状での導入は先に計画ありきでうまく誘導される可能性がある。
- ・ 行政による意思決定、市民による意思決定いずれにしても住民満足、安全性、公益性、時間軸などを視野に入れた客観的な評価と情報公開、合意の形成が必要。また、誘導されないためには結局市民が問題意識を持ち、行動しなければいけない。悪い例がピーチライナー。
- ・ 現状、無駄の多い大きなプロジェクトほど闇の中で決定される。
- ・ 長期的な政策評価では単年度予算（及び決算）だけでなく事業予算（及び決算）を公開する必要がある。
- ・ 現状から、行政内部からの変革は難しい。ある市役所ではNPM、コーチングなどを導入しているが、形式的な導入であり中の人間に変わる気が殆ど感じられない。変わるきっかけは、首長によるトップダウンと市民の圧力の双方が可能性として考えられる。
- ・ これから団塊世代の天下り先として公益法人が増えるのではないか。ただ雇用の受け皿としてかつ、社会的に意義が高ければ公益法人は有意義かもしれない。ただ、補助金浸けになると、放漫経営になりやすくそこで税の無駄遣いが生まれるのが問題。そこを、情報公開と客観評価のうえ市民が納得できるか。

3. ピーチライナー（木下）

ピーチライナーの会合は愛知県主催で1回、こまきあんず主催で2回行われた。

愛知県主催の協議会には山下議員も参加。

平成16年度小牧市予算からの拠出は3,750万円。負債総額は61億円。

有力なのは無人バスの新交通システムへの変更。地域のまちづくりの方向性を加味した代替案が必要であるとの話が出た。桃花台の住民にとってどのような交通が今後望ましいか。

住民の中でも温度差があるという現実もあるとの報告があった。

今回は3月10日（木）18:00開場、19:00開始、名古屋ボランティアNPOセンターにて